

模擬問題・解答解説

2024後期・社福国試対策

医学概論、心理学と心理的支援

／ 老化に伴う心身の変化に関する記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 老年症候群には廃用性症候群、褥瘡、せん妄、薬剤多剤投与などがある。
2. 加齢それ自体による栄養状態の低下はないとされる。
3. 老年病の中に、収縮期高血圧は含まれない。
4. 後期高齢期による最大努力換気量は、若年者と大きく変わらない。
5. 高齢者の聞こえる正常音域（周波数）は、30～20000Hzである。

【正答】1

1. 正しい。老年症候群とは、高齢者に現れやすく、心身の機能低下と深く一連の症状や病態をいい、他に転倒、健忘症候群（記憶力障害）、嚥下障害、栄養障害やうつ状態、かゆみなどがある。老年症候群を併発した結果寿命までも短縮する危険性が出てくる。高齢者に合併しやすい病態の発生を予測し、予防策を講じ、生活への復帰・生活の維持を援助すること、これらが高齢者ケアの目的となる。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P15～16参照）
2. 誤り。第一に、食欲のサーカディアンリズム（およそ24時間の周期で繰り返される日内変動）が午前中に偏ってくるからである。第二に、胃に食物が送り込まれたときに起こる一酸化窒素の放出が悪くなって早期に胃前庭部が充満して十分な食事が摂れなくなる。第三に、脳の視床下部にある満腹中枢や摂食中枢に働くレプチン、コレスチキニン、TNF α 等の神経伝達物質の分泌が変化していくためとされる。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P17～18参照）
3. 誤り。老年病として、皮膚掻痒症、骨粗鬆症・骨折、収縮期高血圧、白内障、認知症（アルツハイマー病）などがある。日本 hypertension 学会によれば、収縮期血圧（最高血圧）140mmHg以上、拡張期血圧（最低血圧）90mmHg以上を高血圧症と診断する。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P19～P69参照）
4. 誤り。後期高齢期（明確な定義はないが、わが国では後期高齢者医療制度の実施より75歳以上を後期高齢者としていう）による、最大努力換気量（呼吸するときに肺を出入りする空気の量のこと、1呼吸の場合を1回換気量、1分間あたりの場合を分時換気量という）は若年者の半分まで落ちると言われている。原因としては、酸素と炭酸ガスとのガス交換を担っている肺胞の弾力性が低下し、肺胞が拡張状態に陥るためである。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P21参照）
5. 誤り。設問は、若年者の聞こえる正常音域（周波数）である。高齢者の場合は、250～8000Hzと範囲が縮小し、とくに高周波数の音（高い音）を聞く能力から徐々に聴力が低下する。聴力低下は個人差の大きいことが特徴である。他に原因のない聴力障害を「老人性難聴」といい、原因は内耳にある蝸牛、とくにコルチ器にある。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P22参照）

2 身体構造と心身機能の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

1. 肩から肘までを前腕、肘から手首までを上腕と呼ぶ。
2. 体内の体液量や体液内の電解質をほぼ一定に保っている状態を人体の恒常性という。
3. 心臓の右の心房と心室の間にある弁を僧帽弁という。
4. 肺は左右二つからなり、左は三つ、右は二つの肺葉に分かれている。
5. 中脳は、脳幹の一番下に位置し生命維持に不可欠な呼吸、心拍、血圧などの中枢がある。

【正答】2

1. 誤り。肩から肘までを上腕、肘から手首までを前腕という。体全体では、大きく3区分し頭頸部、体幹、四肢としている。頸部から体幹までの中軸になっているのが脊柱である。また下肢は足の付け根から膝までを大腿、膝から足首までを下腿という。足の付け根で腹部に接している部分は鼠径である。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P26参照）
2. 正しい。人間の体の約60%は水（体液）である。細胞の中にある水分は細胞内液と呼ばれ体内にある水分量の3分の2を占める。残り3分の1は細胞の外側を取り巻く組織液（間質液）と血液中にある。これを合わせて組織外液という。体液は、細胞に必要な電解質（ナトリウム、カリウム、など）や非電解質（たんぱく質、糖質、脂質、尿素など）を含む。電解質は、体の働きを正常に保ち、生命維持のため重要な働きをしている。通常これらの体液の量や体液内の電解質は、ほぼ一定に保たれている。そのため自由に飲食しても体液や電解質はほとんど変化しない仕組みになっている。これを人体の恒常性（ホメオスタシス）という。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P28参照）
3. 誤り。左の心房と心室の間にある弁を僧帽弁、右の心房と心室にある弁を三尖弁、肺動脈に向かう部分には肺動脈弁、大動脈に向かう部分には大動脈弁があり、心房から心室、心室から大血管と一方向にだけ血液が流れるように機能している。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P31参照）
4. 誤り。肺は左右の二つからなり、左は二つ、右は三つの肺葉に分かれている。この下には横隔膜があり、密封された空間をつくっている。この空間を胸腔と呼ぶ。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P37参照）
5. 誤り。設問の内容は、延髄の説明である。脳幹は上から中脳、橋、延髄の三つに分けられる。中脳は、視覚反射や眼球運動に関する反射の中枢である。橋は、中脳と延髄の間にあり、錐体路の通る橋底部と脳神経（V～VII）がある。延髄は、脳幹の一番下に位置し、脊髄との境界は曖昧である。生命維持に不可欠な呼吸、心拍、血圧、嚥下、嘔吐などの中枢がある。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P43参照）

国際生活機能分類（ICF）からみた、障害について正しいものを1つ選びなさい。

1. 国際生活機能分類（ICF）は障害者を対象に健康に関する分類を行った。
2. 国際生活機能分類（ICF）より、活動とは、生活・人生場面へのかかわりのことである。
3. 国際障害分類（ICIDH）は、障害に社会的不利となる側面があることを提起した。
4. 「個人因子」とは、生活して人生を送っている物的、社会的環境を構成する因子である。
5. 「活動制限」とは、何らかの生活・人生場面に関わるときに経験する難しさのことである。

【正答】3

1. 誤り。ICF（国際生活機能分類）の対象は障害のある人だけに限らず、全ての人の健康に関する分類である。生活機能と障害を記述するための分類法であり、WHO（世界保健機構）によって承認された。生活機能は心身機能と身体構造、活動と参加という構成要素に分類され、環境因子と個人因子を含めそれぞれは相互にかつ複合的に作用し合っている。環境因子とは、人々が生活し、人生を送っている物的な環境や社会環境であり、それらを構成する因子である。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P195～196参照）
2. 誤り。設問は「参加」についての説明である。「活動」とは、個人による課題や行為の遂行のことである。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P199参照）
3. 正しい。WHOは、1980年に国際障害分類（ICIDH）を提起した。回復不能は生物学的状況である機能障害と、回復可能な日常生活上の問題である能力障害と社会的関係の中で、権利が侵害されているという社会的不利といった概念が明確にされた。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P195参照）
4. 誤り。設問は「環境因子」の説明である。「個人因子」とは、個人の人生や生活の特別な背景であり、健康状態や健康状況以外のその人の特徴からなる。これには、性別、人種、健康状態、体力、ライフスタイル、習慣、生育歴、困難への対処法、社会的背景、教育歴、職業、過去及び現在の経験、行動様式、性格、心理的資質などが含まれる。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P201参照）
5. 誤り。設問は「参加制約」の説明である。「活動制限」とは、個人が活動を行うときに生じる難しさのことである。制限や制約は、観察されている実行状況と期待されている実行状況との解離を示す。期待されている実行状況とは、その集団における基準であり、特定の健康状態にない人々が経験している状況である。個人に問題がない場合でも、社会環境が原因となって問題が生じることがある。例えば、症状がなく、発症していないHIV陽性者が偏見のため働くことができない場合などである。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P200参照）

4 疾病の概要について、正しいものを1つ選びなさい。

1. 生活習慣病には、境界域高血圧、B型肝炎ウイルスのキャリア等が含まれる。
2. 右脳梗塞の場合、錐体外路障害により左側に麻痺が生じる。
3. 心筋梗塞は5分以内で胸痛が治まり、薬物療法のニトログリセリンが有効である。
4. 高齢者の慢性呼吸不全では、肺気腫、慢性気管支炎、びまん性細気管支炎などがある。
5. A型肝炎、B型肝炎の感染経路は血液感染である。

【正答】4

1. 誤り。未病の対象疾患である。脂質異常症、境界域糖尿病、肥満、高尿酸血症、動脈硬化、骨粗鬆症、無症候性蛋白尿、無症候性脳梗塞、脂肪肝、潜在性心不全、メタボリックシンドローム等をいう。病気に罹患後の対応や重症化してからの対応から視点をかえて、未病への対応が今後の新たな分野といえる。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P57参照）
2. 誤り。例えば、脳梗塞が左半球に生じると梗塞部位と反対側に麻痺を生じる。反対に右大脳半球に生じると左片麻痺が生じる。これは大脳半球から運動神経が延髄の錐体で左右に交差するからである。これを錐体交叉という。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P63参照）
3. 誤り。冠動脈のどこかに、完全閉塞が起こり、心筋虚血により心筋が壊死に陥った状態である。症状は30分以上続く胸痛が特徴、狭心症のようにニトログリセリンは効果がない。心不全や不整脈も出現し、致死率も高くなる。しかし高齢者では、典型的な症状は80歳代になると10%以下といわれ、無症状のまま倦怠感だけで経過することも有る。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P67参照）
4. 正しい。慢性閉塞性肺疾患（COPD）がみられ、気道感染、肺炎、右心不全を契機に呼吸不全をきたす。COPDは肺気腫と慢性気管支炎の両者を総称して呼ぶ。労作時の呼吸困難で発症することが多い。息切れは次第に悪化し、軽い咳嗽や喘鳴を伴うようになる。介護保険法において、特定疾病の1つに指定されている。特に在宅酸素療法の適応者がサービスを受ける場合には関係してくる。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P77、78参照）
5. 誤り。主な肝炎ウイルスの特徴としては、A型肝炎は、感染経路が生ガキ等による経口感染である。潜伏期が15日から40日間、家族内感染がみられる。B型・C型肝炎は感染経路が血液感染である。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P37参照）

5 感染症に関する説明として、正しいものを1つ選びなさい。

1. 感染とは、細菌が体内に侵入し定着することをいう。
2. ノロウイルスは、二枚貝に生息し、夏に多く発生する食中毒である。
3. 新型コロナウイルス感染症は感染症法上の位置づけが5類から2類感染症となった。
4. 感染成立の三大因子は、感染源、感受性、感染経路である。
5. 感染症法による5類感染症は、診断後ただちに届け出が求められている疾患である。

【正答】4

1. 誤り。感染とは、「微生物」が体内に侵入し定着することである。その感染によって生じる病気を感染症という。感染症は、細菌だけではなく、真菌、ウイルス、寄生虫など病原微生物だけでなく、異常プリオン体（多くは神経細胞に存在するたんぱく質が感染性を有するようになったもの）と呼ばれる感染性たんぱく質によって引き起こされる場合もある。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P103参照）
2. 誤り。ノロウイルスは、カキ、アサリ、シジミ等の二枚貝に生息し、人がこれを経口摂取し感染性胃腸炎を引き起こす。秋から冬にかけて多く発症する。感染から1～2日で下痢、嘔吐、腹痛、発熱などが出現する。飛散したウイルスを吸い込んだり、ウイルスで汚染した手指、調理器具、器等から経口感染し伝播する。症状は1～2日で改善し後遺症を残すことはない。特定の治療はなく、対処療法的な治療を行う。高齢者や小児は、特に脱水に陥らないように水分を十分に摂取する必要がある。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P103参照、食中毒については、厚生労働省HP：事務連絡 令和2年12月10日 健康局結核感染症課医薬・生活衛生局食品監視安全課「ノロウイルスの感染症・食中毒予防対策について」 <https://www.mhlw.go.jp/content/11130500/000685509.pdf>参照）
3. 誤り。新型コロナウイルス感染症の位置づけは、「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類感染症相当）」としていたが、令和5年5月8日より「5類感染症」となった。（厚生労働省HP：<https://www.gov-online.go.jp/pr/media/radio/sc/text/20230430.html>参照）
4. 正しい。感染症は、細菌やウイルスの病原菌の強さと宿主すなわち人間が有する抵抗力の強さによる戦いに、宿主側が負けて起こる。これを顕性感染とよび、一方宿主が強く、感染症が発生しない場合を不顕性感染と呼ぶ。これら感染源（病原菌）、感受性（宿主因子）、感染経路（環境因子）を感染成立の三大因子と呼んでいる。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P222参照）
5. 誤り。設問は、感染症法（感染症の予防及び感染所の患者に対する医療に関する法律）が対象とする分類の中で、4類感染症の説明である。5類感染症は、診断から7日以内（一部を除く）に届出が義務づけられている。1～3類感染症は、感染力や症状の重症度に基づいて危険性の高い順番に分けられている。また、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、及び新感染症が加えられている。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P222参照）

リハビリテーションの概要の説明について、正しいものを1つ選びなさい。

1. リハビリテーションの目的の1つに「全人的復権」を果たすことがある。
2. 廃用症候群では、全身機能低下だけが問題になる。
3. 「失語症」は、音を発生させる器官に問題があるため言語聴覚士が有効である。
4. リハビリテーションの開始時期と改善は、高齢者にとって問題にならない。
5. リハビリテーションは、少人数精鋭で実施されることで効果をもたらす。

【正答】1

1. 正しい。リハビリテーションの目的は、患者の人間らしく生きる権利を回復し「全人的復権」を果たすことである。更にリハビリテーションとは身体機能低下を阻止するだけではなく、身体、精神、社会、職業、趣味、教育の諸側面の潜在能力や可能性を十分に発展させるような指導、訓練、環境設定を行い、機能回復・社会復帰を図ることである。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P173～174参照）
2. 誤り。長期安静により身体を使わないため、関節拘縮や筋の萎縮の可能性は高まる。廃用性症候群とは、病気や外傷のため長期間ベッドで安静にしていた、災害後の避難場所で動かない時間が続いていたなど、主に身体機能を使わないことによって筋肉や関節などが萎縮・拘縮することである。全身臓器の機能低下はもとより心理面や生活の質の悪化をもたらし得る。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P11～179参照）
3. 誤り。言語障害は構音障害と失語に分けられる。構音障害は、音を発生させる器官が麻痺などによりうまく機能しないために言葉が相手に伝わりにくい。失語症は、聴く、話す、読む、書く、計算の全て、あるいは一部に障害をきたすことである。標準失語症検査を行い、失語症の種類や重症度を判定する。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P182参照）
4. 誤り。回復期リハビリテーションの中に、課題としてリハビリの開始時期と改善はある。一般的には、若い人ほど、早期にリハビリを始めるほど、そしてリハビリ開始時の障害が軽いほど改善は大きい。リハビリを受けた、患者の機能状態が、これらの予後予測の目標に達していると判断されれば入院によるリハビリテーションは終了となる。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P185参照）
5. 誤り。リハビリテーションの大きな特徴は、いろいろな職種の人たちがチームを組んで患者の治療にあたることである。各専門職がそれぞれ医師の指示により、検査や調査を行い関係する全専門職が集まり、入院あるいは退院時の症例評価検討会（ケアカンファレンス）を開催する。抱える問題点を確認し合い、予後予測に基づいたチームとしての目標を定め、その目標を達成するためのリハビリプログラムの決定等を行う。メンバーがそれぞれの専門性を活かしながら、協調し共同で作業を進め、一貫性のある対応をして一つの目標を達成するように努める。これをチームアプローチという。（『新・社会福祉士養成講座①人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版（2018年）P189参照）

7 次の記述のうち、オペラント条件づけの事例として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 乗り物酔いをよくする人が、「ドライブ」と聞くと気分が悪くなる。
2. 交通事故に遭ったことがある人が、車のエンジン音を聞くと不安な気持ちになる。
3. 毎日同じ道を通っていると、道沿いの景色や看板に目を向けなくなった。
4. 宿題をしなかったら親からゲーム機を取り上げられたので、宿題をするようになった。
5. テレビでサッカー選手のドリブルを見て、自分でやってみたら上手にドリブルができるようになった。

【正答】4

1. 適切でない。これはレスポナント条件づけの事例である。レスポナント条件づけとは、レモンを見ただけで、食べなくても唾液が出るようになるような条件づけである。同じように、「ドライブ」という言葉を聞くだけで、車に乗らなくても気分が悪くなることもある。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版（2015年）P66～67参照）
2. 適切でない。これはレスポナント条件づけの事例である。交通事故に遭った時に経験したエンジン音が、不安反応を引き起こすようになったと考えられる。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版（2015年）P66～67参照）
3. 適切でない。これは馴化の事例である。馴化とは、同じ刺激を何度も繰り返すうちに、その刺激に対する反応が減弱していくような学習である。他に、工事が始まって大きな音に驚いたが、しばらく経つうちに慣れて驚かなくなるというのも馴化による。（『公認心理師の基礎と実践12 発達心理学』遠見書房P30参照）
4. 適切。これはオペラント条件づけの事例である。オペラント条件づけとは、自発的な行動の後に、賞罰（強化子）が伴うことで、その行動の頻度が変化するような学習である。この選択肢の場合、宿題をしないという自発的行動に、ゲーム機が取り上げられるという罰が伴ったので、宿題をしないという行動が減った（すなわち宿題をするようになる）と考えられる。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版（2015年）P67～68参照）
5. 適切でない。これは観察学習（モデリング学習）の事例である。観察学習とは、他人（モデル）の行動を観察・模倣するだけで成立する学習である。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版（2015年）P71参照）

8 心的外傷後ストレス障害 (PTSD) に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. ドメスティック・バイオレンス (DV) の被害者に最も多い精神障害はうつ病であり、心的外傷後ストレス障害 (PTSD) は稀である。
2. ト라우マを扱う認知行動療法は、心的外傷後ストレス障害 (PTSD) の治療に効果がある。
3. 過覚醒症状とは、生死に関わる体験の記憶が何度も思い出され、その場に連れ戻されたように感じ、その時と同じ感情がよみがえるものである。
4. 人は生死に関わる体験をすると、すべて心的外傷後ストレス障害 (PTSD) を発症する。
5. 受傷直後、フラッシュバック、過覚醒症状、回避症状などが起こると、心的外傷後ストレス障害 (PTSD) と診断される。

【正答】2

1. 適切でない。ドメスティック・バイオレンス (DV) の被害者には、心的外傷後ストレス障害 (PTSD) も多くみられる。「シェルターに逃げてきた (DV) 被害者に対する調査」では、うつ病は4割から6割、PTSDは3割から8割の被害者に診断される。(厚生労働省 eヘルスネット<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/heart/k-06-004.html>参照)
2. 適切。心的外傷後ストレス障害 (PTSD) の治療には、トラウマについて話しながら気持ちを整理していく認知行動療法の有効性が実証されている。その代表的な方法である持続エクスポージャー療法では、安心、安全を確かめながら、治療者と一緒に決まった手続にしたがって記憶を思い出し、今までとは違った考え方を学んでいく。(厚生労働省 eヘルスネット<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/keywords/post-traumatic-stress-disorder>参照)
3. 適切でない。これは心的外傷後ストレス障害 (PTSD) の症状のうち、フラッシュバック (侵入症状=再体験症状) の記述である。(『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版 (2015年) P174参照)
4. 適切でない。どのような出来事を体験したか、社会的サポートがどのくらい受けられるか、生活上のストレスの程度、以前のトラウマ体験の有無などの要因により、発症のリスクは異なるとされる。(こころの情報サイト、国立精神・神経医療研究センター参照)
5. 適切でない。心的外傷後ストレス障害 (PTSD) の診断は、これらの症状が1か月以上持続する場合になされる。3日~1か月以内ならば、急性ストレス障害 (ASD) と診断される。(『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版 (2015年) P175参照)

9 愛着理論に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 乳幼児期の愛着行動は、養育者の子どもに対する養育態度により決定される。
2. 乳幼児期の子どもの愛着対象は、母親に限定される。
3. 3歳以降になると、一般に愛着行動は徐々に減少していく。
4. 安全基地の存在は、子どもの自立にとって妨げになる。
5. ストレンジ・シチュエーション法では、子どもの愛着パターンとして、A（回避型）、B（安定型）、C（抵抗型）の3つが見出されている。

【正答】3

1. 適切でない。愛着は、乳幼児側が示す愛着行動（微笑、後追い行動など）と、それに対する養育者側の情緒的応答性の相互作用によるので、養育態度のみにより決定されるわけではない。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版（2015年）P28参照）
2. 適切でない。愛着とは、乳幼児と「特定の人との間に結ばれる強いこころの絆」のことであり、母親に限定されない。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版（2015年）P28参照）
3. 適切。愛着理論をまとめたボウルビィ（Bowlby, J.）は、生後2～3年ほどの時期が重要であると論じており、3歳くらいから、愛着の対象が内的作業モデル（自分や他者に関する内面的なイメージや期待）として内在化される。それによって愛着行動は徐々に減少し、養育者の考えや感情を推測して自分の行動を修正することができるようになっていく。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版（2015年）P125、129参照）
4. 適切でない。安全基地とは、「安心感や心地よさが保証された環境」のことで、子どもにとっての愛着対象（通常は母親）が、外の世界を探索するときに戻ってくるることができる拠点となる。従って、安全基地の存在は、自立に役立つ。（『現代心理学入門2 発達心理学』岩波書店P40参照）
5. 適切でない。ストレンジ・シチュエーション法とは、エインズワース（Ainsworth, M. D.）が母親と子供の間での愛着を観察するために考案した実験法で、母子の分離・再会の様子を観察する。その過程で、A（回避型）、B（安定型）、C（抵抗型）のほかに、D（無秩序型）を見出している。D（無秩序型）は近親者の死、抑うつ傾向の強い養育者、虐待などの問題と関係するとされている。（『現代心理学入門2 発達心理学』岩波書店P42～48、<https://psychologist.x0.com/terms/142.html>参照）

10 ストレスに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. タイプA行動パターンは、課題に取り組むときには、1つのことにじっくり時間をかけて行う。
2. 看護師やソーシャルワーカーなどのヒューマンサービス従事者は、バーンアウトに陥りにくい。
3. ストレッサーとなる出来事が、いつ起こるか予測できることは、ストレスの緩和にはつながらない。
4. 日常の些細ないらだちごとが積み重なることによって、健康障害につながるものが明らかになっている。
5. コーピングとはストレスの原因になる出来事のことである。

【正答】4

1. 適切でない。タイプA行動パターンは、競争心が強く、仕事に熱中し、攻撃的で、イライラしやすいといった性格傾向である。従って、1つのことに時間をかけて取り組むというより、たくさんを同時に急いでやるようなタイプである。タイプA行動パターン的人是、心臓病や高血圧などのリスクが高いとされている。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版（2015年）P169参照）
2. 適切でない。バーンアウトは「燃え尽き症候群」とも呼ばれ、医療や福祉などのヒューマンサービスの現場で生じやすい。その理由として、①対象者に温かい態度で献身的に接することが求められること、②一方で、日常業務を冷静に客観的に行わなければならないこと、③仕事の成果がすぐに現れにくいこと、等があげられる。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版（2015年）P170～172参照）
3. 適切でない。これは「予測可能性」と呼ばれ、ストレスを緩和する要因となる。その理由として、安全信号説などが挙げられている。これは、例えば、ある病気の患者さんにとって、「痛み」がいつ起こるか予測できれば、そのときまで、ある程度くつろいでいることができるからである。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版（2015年）P177～178参照）
4. 適切。これはデイリーハッスル（日常のいら立ちごと）と呼ばれ、その蓄積により、健康障害と関連が深くなるといことが指摘されている。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版（2015年）P163～164参照）
5. 適切でない。コーピングとは、「ストレス反応を少しでも減らそうとする心の働きのこと」である。例えば、気晴らしをしたり、問題を取り除く工夫をするなどを指す。ストレスの原因となる出来事は、「ストレッサー」、「ライフイベント」などと呼ばれる。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版（2015年）P178～179参照）

心理検査に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 成人の記憶能力を把握するためロールシャッハテストを実施した。
2. 高齢者の抑うつ状態を評価するため、改訂長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）を実施した。
3. 投影法による人格検査を依頼されたので、YG性格検査を実施した。
4. 乳幼児の知能を測定するため、WAIS-IVを実施した。
5. 質問紙法の人格検査を依頼されたので、MMPIを実施した。

【正答】5

1. 適切でない。ロールシャッハテストは、インクのしみて作られた模様に対する反応から人の性格や精神状態を明らかにするテストである。成人の記憶能力を把握するためのものではない。ちなみに、WMSTM-Rウェクスラー記憶検査（WMS-R）という、16歳～74歳までの青年および成人の記憶の主な側面を評価するための検査がある。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版（2015年）P191参照）
2. 適切でない。改訂長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）は、認知症のスクリーニングテストの一つで、日本では医療・介護現場で広く用いられている。（『よくわかる 高齢者の心理』ナカニシヤ出版P81～84参照）
3. 適切でない。YG性格検査は、「質問紙法」の人格検査である。正式には、矢田部ギルフォード性格検査といい、120問の質問に「はい」「？」「いいえ」の3通りで回答し、その結果から性格特性を測定する。臨床や教育、産業などの分野で広く用いられている。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版（2015年）P188～190参照）
4. 適切でない。WAIS-IVは、ウェクスラー成人知能検査の略称で、16歳から90歳11か月までの青年および成人の知能を測定するための個別式の包括的な知能検査である。ウェクスラー式知能検査で、乳幼児の知能を測定するためには、WISC-IV（5歳0か月～16歳11か月）やWPPSI-III（2歳6か月～7歳3か月）が用いられる。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版（2015年）P79～80参照）
5. 適切。MMPIは、ミネソタ多面式人格目録検査の略で、550問からなる「質問紙法」の人格検査。MMPIは、心理臨床や心理学研究の場面で広く用いられており、世界的に使用頻度の高い心理検査の一つである。（『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版（2015年）P190参照）

2 心理療法に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 家族療法は、家族問題の解決のため、IP (Identified Patient) に働きかける療法である。
2. 精神分析療法は、不安をあるがままに受け入れられるようにクライアントに働きかける。
3. 認知行動療法は、課題動作を通じ、クライアントの体験様式の変容を図れるように支援する。
4. 社会生活技能訓練 (SST) では、ロールプレイなどの技法を用い、対人関係に必要なスキル習得を図る。
5. 遊戯療法は、言語によって十分に自分の考えや感情を表現できない幼児を対象とし、主として即興劇が用いられる。

【正答】4

1. 適切でない。家族療法では、相談者の問題は家族全体からあらわれたものと捉え、家族全体の人間関係を適切なものにするによって、相談者と家族の問題解決を目指す。家族療法では、IP (患者とみなされた人) という言葉を使って、問題行動や心理症状を示す人物を表すが、特定の個人だけに働きかけるものではない。(『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版 (2015年) P204~205 参照)
2. 適切でない。精神分析療法は、患者の夢や自由連想などを通して、無意識に抑圧された欲望や感情、トラウマなどを探り出し、それらを意識化して自己理解を深めることで、神経症や精神障害の治療を目指すものである。不安をあるがままに受け入れられるように働きかける心理療法には、例えば森田療法がある。(『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版 (2015年) P196~197参照)
3. 適切でない。認知行動療法は、不適応的な学習行動や認知を修正して、適応的な行動や認知を再学習させるアプローチである。課題動作を通じ、クライアントの体験様式の変容を図るのは、動作療法である。(『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版 (2015年) P197~199, P200~203参照)
4. 適切。社会生活技能訓練 (SST) では、人間関係やコミュニケーションに関する技術や技能を学習理論に基づいて学習訓練することで、対人場面での不適応や問題を解決することを目的としている。学習の技法としてロールプレイングが用いられることが多い。(『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版 (2015年) P207~208参照)
5. 適切でない。遊戯療法では、言語で十分に表現できないクライアントを対象に、遊びを主な表現、コミュニケーションの手段とするので、即興劇に限定されるものではなく、砂遊び、描画遊び、家族人形遊び、ロールプレイ遊び、ゲーム遊びなど様々な遊びが用いられる。(『新・社会福祉士養成講座②心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版 (2015年) P199~200参照)